

## つがるちゃん育ての親へ感謝の絵

2/22 市役所



つがるちゃんの絵を贈った山内崇嵩さん

つがるちゃんの生みの親である画家・山内崇嵩さんが、3月に退任する福島市長を訪ね、感謝の絵をプレゼントしました。つがるちゃんは平成18年8月、全国から公募したデザイン1,216点の中から選ばれ、市のマスコットキャラクターとして市民に親しまれています。

山内さんが贈った絵は、にっこり笑顔のつがるちゃんが「オツカレサマデシタ」と微笑みかけています。

山内さんが「長い間リーダーシップを発揮して素晴らしい功績を残され、つがるちゃんの育ての親でもある市長に感謝の気持ちを込めて、普段よりも笑顔で描きました」と手渡すと、福島市長は「トップセールスでは、子どもたちがネギのしっぽにぶら下がって喜ぶ。これからも市のPRに活躍してもらいたい」と笑顔で受け取りました。

## タブレット授業スタート「楽しい」

市が配備したタブレット端末を使った市内で初めての授業が行われました。この取り組みは、国が推進する「GIGAスクール構想」の一環として、市内の全小中学生に1人1台、合わせて2,031台のタブレット端末を配備したものです。

この日は、福島市長と葛西教育長が見守る中、5年生34人が算数の授業で「正多角形を描くプログラム作り」に挑戦。画面上に出る「右に向かう」「前に進む」といった指示をタッチパッドで並び替えながら、多角形を作成し特徴を学んでいました。田村奏太くんは「タブレットの授業は分かりやすく、操作も簡単で楽しかった」と振り返りました。

福島市長は「1日も早くタブレットに親しんで、勉強をがんばってほしい」と力を込めました。

2/25 瑞穂小学校



授業を見守る福島市長と葛西教育長

## ろう者の生活に理解を

2/25 市役所



イラスト同好会の3人と西北五ろうあ協会の会員

聴覚障害者と手話についての理解を広げようと、市と木造高校美術部イラスト同好会が昨年5月から制作を進めてきた啓発冊子「みんなでつくる やさしいまち」が完成しました。冊子は市立図書館に配置するほか、3月3日(耳の日)から市ホームページで公開しています。

冊子では、聴覚障害者の生活が親しみやすい4コマ漫画で描かれており「大きな声で呼びかけても返事がない場合、その人は聴覚障害者かも」など24本の物語を掲載しています。同好会の白戸琴弓会長(3年)は「多くの人が配慮してろう者の方が暮らしやすくなれば」と期待。制作に協力した西北五ろうあ協会の成田明子事務局長は「生徒の皆さんが一生懸命作ってくれた。気軽に読んでもらって理解が広がってほしい」と話していました。

## 桃の節句にお点前を披露

菰槌保育園でお茶会が行われ、年長組9人が、茶道のお点前を披露しました。

同保育園では、年長組の園児に礼儀作法を学んでもらおうと、毎年3月3日にお茶会を開いています。園児たちは、1月から茶道具の名前を覚え、園長先生にお点前を教わってきました。

お茶会は、遊戯室に畳を敷き茶室に見立てたスペースで行われました。子どもたちは、代わる代わる茶せんを使ってお茶をたて「どうぞ」「けっこうなお茶です」などと作法通りのあいさつを披露。羊羹と一緒に抹茶を味わいました。

長谷川心春ちゃん(6歳)は「練習通りに上手にできた。いただいたお茶もおいしかった」と話していました。



3/3 菰槌保育園

お母さんにお茶を出す子どもたち

## プログラミング作品全国大会 原田さんが特別賞



3/11 市役所

左から担任の前多先生、原田さん、母あゆみさん

子どもたちのプログラミング思考を競う作品コンテスト「Minecraftカップ全国大会」にて、育成小学校5年生の原田優月さんが、特別賞の「Microsoft賞」を受賞しました。

大会は、ブロックを積み重ねて仮想空間を作り遊ぶゲーム「マイクラフト」の教育版を使って「未来の学校」を創作するもので、全国から483点の応募がありました。

原田さんの作品「Sea School」は、持続可能な開発目標(SDGs)の学習を通して、水の大切さを学んだことから海の中に学校を創作。地下には食料保管倉庫を作り、食料に困っている人を助けられるような工夫が施されています。

葛西教育長は「原田さんはプログラミング学習の先駆け。海の中に作った想像力と審査員への受け答えが的確だった」と称え、原田さんは「次もまた賞を取れるように頑張りたい」と意欲を見せました。

## 学校歯科保健優良校表彰 稲垣小が県1位

稲垣小学校が、令和2年度学校歯科保健優良校表彰の小学校中規模の部で県内1位に選ばれ、福島市長らに喜びを報告しました。

表彰は県教育委員会などが主催したもので、同校では良好な歯・口の状態を保持増進させるための個人・集団指導や保護者への啓発を行っているほか、市の補助事業を活用して歯の質を強くするためのフッ化物洗口を取り入れるなど、年間を通じた継続的な活動に取り組んでいます。

野呂裕佳子養護教諭は「永久歯になったタイミングで一瞬きれいになる時期があり、それを維持できるよう児童たちに指導している」と話しました。福島市長は、「根気よく続けることが大事。県内で1番だという誇りを持って、これからも継続してほしい」と激励しました。



3/11 市役所

三上校長(左から2番目)と野呂教諭(同3番目)